

氏名	山本 英子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	修士（保健学）				
学歴	2006年群馬大学大学院医学系研究科博士前期課程				
経歴	2006年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、2014年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会、日本新生児看護学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、千葉看護学会、日本看護シミュレーションラーニング学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	2026年版 系統別看護師国家試験問題集 (第114回看護師国家試験 解答と解説)	共著	あり	医学書院；P1652	母性看護学（石井邦子、大月恵理子、 <u>山本英子</u> 、他4名	2025.4
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	母性看護学Ⅱ（方法論）		2	看護学科2年次生129名に対し、母性看護学領域の看護過程の特徴である「ウェルネス志向型」看護過程の講義を担当した。学生が系統的・段階的に理解が深まり、講義・演習・臨地実習の連続性を意識できるように講義を展開し、電子カルテシステムも新たに活用した。看護過程記録の提出後には各記録を確認し、良かった点、改善点、実習に向けたアドバイスなどを「総評」にまとめ、3年次の母性看護学実習に活用できるように工夫した。		
2	分娩期のケア		2	看護学科助産系4年次生17名に対し、助産診断・ケア技術能力の向上、根拠に基づいた助産ケアの実践に向けて、ガイドラインや研究結果、臨床での実際も含め講義を行った。模型や視聴覚教材を活用し深い理解を促した。さらに、助産師のコアコンピテンシー、キャリアデザイン、目標設定や行動計画にもふれ、学生が自己調整学習を展開できるよう支援した。		
3	周産期のケア		1	看護学科3年次生17名に対し、出産育児準備教育、妊娠期の運動に関する講義を担当した。わが国の現状と課題から、対象（母子、家族、地域）が求める集団・個別教育、身体活動支援について、理解および考察が深まるよう支援した。さらに、模擬集団教育の授業案作成やキャリアプランにつながるよう、意図的に展開した。		

4	ハイリスク周産期	○	7	看護学科4年次生33名に対し、わが国の周産期医療体制、周産期医療の現状と課題、ハイリスク妊産褥婦・新生児とその家族に関する看護に関する講義を行った。対象（母子、家族、地域）が求める看護や看護職の役割について、理解および考察が深まるよう支援した。ゲストスピーカー（専門看護師2名）、非常勤講師（産科医師）による講義では、学生が臨床の実際や最新の医療について学べるよう調整を行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学Ⅱ（方法論）		8	看護学科2年次生129名に対し、看護過程演習の主担当を行った。学生が計画的に主体性・積極的に学習を深められるよう、演習展開案、架空事例を作成した。自己学習やグループ討議では、系統的・段階的に理解が深まり、実習への連続性が意識できるよう支援した。また、各グループ間での情報共有によって多様な視点・価値観を理解し合い、母性看護学領域の対象者（母子、家族）の包括的理解、ウェルネス志向型看護過程の展開ができるよう意図的に関わった。実習と同様に、初期計画立案および実施評価（必要時、計画修正）ができるよう授業内容を工夫した。円滑な演習運営が行えるよう教員用演習計画を作成し、他の担当教員とも調整を図った。
2	周産期のケア		5	看護学科3年次生17名に対し、助産師外来演習（妊娠健康診査および妊娠期の保健教育）、妊娠期の運動（マタニティピクス）演習、沐浴演習を行った。臨床の実際がイメージできるように、具体的に実践を通して理解が深まるように支援した。学生同士でのロールプレイや実際の運動体験から、対象理解や対象者(妊婦)からの視点でも助産ケアや集団教育を考察できるように展開した。対象者のニーズに沿った一貫性を意識した看護過程の展開、看護実践を行い、自己実践を省察できるように支援した。
3	分娩期のケア		16	看護学科4年次生17名に対し、産痛緩和（アロマセラピー・足浴）、新生児の観察と計測、分娩介助技術、助産過程を担当した。診断・ケア技術、コミュニケーション、チームワーク、評価(リフレクション)の各能力が系統的・段階的に向上するよう支援した。とくに、臨床での活用をイメージ化できるよう努めた。演習担当として、授業案および演習展開案の作成、準備、運営、評価を行った。分娩介助技術の習得にむけて、実習室を開放し自己練習・学習の環境を整えた。また、他者と連携協働して技術練習に取り組み、学生が目的・目標を明確にしながら自己研鑽できるよう自己評価シートの活用を支援した。
4	リプロダクティブヘルスと看護		3	看護学科3年次生13名に対し、各学生が自分の興味のあるリプロダクティブヘルスに関するテーマについて発表ができるように個別面談・個別指導などを行った。とくに、テーマ設定、目的の明確化を行い、一貫性のある発表内容およびスライドとなるよう支援した。グループワーク・発表では、学生が主体的に積極性・自主性をもち参加できるよう、ファシリテートを行った。

(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2025.5～2025.6	3年次生に対し、学外施設2施設の産科病棟での実習指導（学生数24名）、実習2：性と生殖に関する実習のカンファレンス担当（学生8名）を行った。産科病棟実習では、産褥期・新生児期の変化、母乳育児支援、母子相互作用・愛着形成、退院後の生活について、対象理解が深まるよう支援した。臨床看護職のかかわりからも産科病棟における看護や看護職の役割、多職種連携について考察できるように工夫した。また、各施設に応じた事前課題やオリエンテーション資料を作成し、限られた臨地実習の期間の中で学生の学びが最大限になるように工夫した。
2	総合実習（母性看護学領域）		2025.7.	領域窓口を担当し、領域別実習要項の作成、実習配置などの調整を行った。病棟実習では、助産系4年次生4名を担当した。妊娠期・産褥期・新生児期にある対象の包括的な理解、妊娠期からの継続支援や長期的視点を含む個性性の高い看護実践ができるよう、学生のレディネスを把握したうえで、学生の主体性を尊重し、積極性・自律性を意識して支援した。対象者に寄り添った助産実践が学べるように努めた。
3	助産学実習Ⅱ		2025.8～2025.9	4年次生助産系学生4名を対象に産科施設で実習指導、4年次生17名を対象に学内実習（模擬産婦を活用したリアルなシミュレーション実習）を行った。入院の判断から分娩介助までの助産実践では、既習の知識・技術を統合し思考の整理や技術の獲得ができるよう支援した。学生のレディネスに応じて、段階的に助産ケア能力が向上するよう展開した。さらに、助産観の醸成を意識して関わった。可能な限り臨地で経験できるよう施設と調整した。また、学内実習では、実際の臨床現場により近づけた環境設定や、ブリーフィング、デブリーフィングを丁寧に行うことで、学生の学びが最大限になり臨地実習に向けた実習意欲が向上するよう工夫した。
4	IPW実習		2025.9～2025.10	学部4年次生5名の教員ファシリテータ（FT）を担当した。学生が主体的に参加し、活発な討議や個人・チームのリフレクションが深められるよう支援した。施設FTおよび施設スタッフ、同施設担当の教員FTと連絡・報告・相談を密に行い、学生が実習目標を達成できるように調整およびファシリテートを行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025.4～2025.12	主指導 3名	副指導 0名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	電子カルテシステムでの事例作成	2025.10～2025.12	2年次生129名に対し、電子カルテシステムを活用した事例提示を行うため、Medi-EYE対応の事例および事例シートを作成した。看護過程演習をより臨床に近づけた看護過程の展開が実践できるような架空事例を作成した。産褥期・新生児期にある対象者の理解が深まるよう、臨地実習でかかわることの多い事例となるように工夫し、教育の質の担保に務めた。	
2	分娩介助技術習得に向けた技術練習指導	2025.4～2025.6	4年次生助産系17名に対し、直接分娩介助技術（清潔野作成～分娩後2時間の説明）の自主練習において指導を行った。母児の安全・安楽かつ根拠に基づく技術の習得に向けて自己調整学習が展開できるよう支援した。	

3	助産学実習Ⅱ（分娩介助実習）に向けた施設別技術練習指導	2025.7～2025.8	4年次生助産系学生4名に対し、実習施設の分娩介助技術、分娩期のケア、出生直後の新生児ケア、助産過程の展開などを行った。模型や視聴覚教材、シミュレーションシナリオ、事例を活用して、臨地実習をイメージできるよう努めた。学生のリアリティショックの緩和、実習意欲の向上を意識し、対象者に寄り添った助産実践ができるよう支援した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	専門職連携を学ぶ講座	埼玉県立大学	チームビルディング研修	2025.5
2	新人助産師研修	埼玉県看護協会	新人助産師のための分娩ケア	2025.10.
3	夢を見つける！リアル体験教室	埼玉県	看護師になりたい	2025.11
4	ベビーマッサージ	越谷市児童館 ヒマワリ	ベビーマッサージ&エクササイズ～親子で楽しくスキンシップ～：主担当講師（パンフレット作成・実施）	2026.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	埼玉県立春日部女子高等学校		学校評議員	2018.4～現在
2	埼玉県看護協会 助産師職能委員会		委員	2020.6～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称			年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	ダイバーシティ推進委員会相談員（妊娠・育児）		2023.4～現在
2	学科等における委員会等	実習計画調整会メンバー、臨地実習指導者研修会リーダー		2025.4～2026.3
3	大学広報活動	オープンキャンパス担当（教員相談）		2025.8
4	学生支援	車いすバスケットボールサークルSPRED顧問		2020.4～現在
5	学生支援	学生担任（看護学科2024年度入学生）		2024.4～現在
6	学生支援・卒業生支援	助産師関連科目履修者同窓会担当		2024.4～現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			